



NPO 緑の会

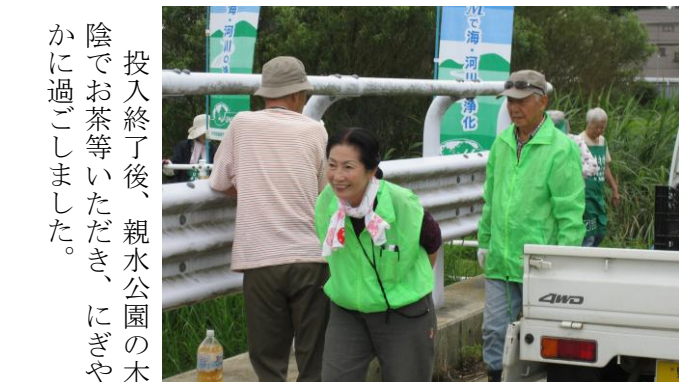
特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

第三回全国一斉EM団子・活性液投入
相野谷川投入で
NPO緑の会会員など31名が参加



終了後のお茶会の様子

NPO地球環境・共生ネット
トワーク(Uーネット)では、
一昨年から「全国一斉EM団
子・活性液投入」の日を決め
て、全国の仲間に参加を呼び
掛けており、今年は7月中の
海の日を中心に実施すること
になっています。
私たちは当月の定例会(21
日)に毎月浄化活動を実施し
ている相野谷川で実施しまし
た。参加したのは、会員26名
の他谷和原西部土地改良区
皆さん5名も加わり、総勢31
名の参加がありました。
相野谷川に投入したのは、
EM団子2000個、EM活
性液1トンの他、参加者が家
庭から持ちよった54リット
ルの米のとぎ汁活性液でした。
相野谷川親水公園近くの橋
近くに幟旗を掲げて一斉に団



投入終了後、親水公園の木
陰でお茶等いただき、にぎや
かに過ごしました。

EM団子約51万個、EM活
性液約720トンですが、本年
はさらにこの数字を上回るこ
とでしょう。



EM活性液投入の準備

子と活性液を流し入れました。
昨年度の全国の投入実績は

牛久市の生ごみ堆肥化事業を視察

8月23日(木) NPO緑の会役員と阿見緑の会、牛久緑の会の役員等の皆さん総勢14人で昨年度から始まった牛久市の堆肥化の状況を視察してきました。

搬入された生ごみの堆肥化は、市内の養豚業者に運ばれ、そこで堆肥化されますが、最近外部からの病原性微生物の進入を防ぐために見学等を厳しく制限しているとのこと、残念ながら堆肥化の現場を見ることはできませんでした。

しかし、牛久市の廃棄物対策課の山田、荒木両氏から生ごみ回収の現場で詳しく説明を受けることができました。



牛久市役所係員の説明

牛久市堆肥化の概要

●モデル地区・世帯数 刈谷町の428世帯、84ステーションで平成23年1月から開始。

●現在 1650世帯中778世帯(参加率47.2%)で実施。当該地区は道路幅が広く、戸建の住宅地域で、マンションなどの集合住宅はない。

●生ごみの回収 回収は週に2回回収される。参加者は生ごみを入れたバケツを前日置かれたステーションの回収容器にあける。

この回収容器はフランス製のキャスター付き90リットル容量の容器で1個2万円強するとのこと。



パワーゲート付トラック

●回収車の装備 回収車は2トントラックで、パワーゲート付(地面まで上

下する台にキャスター付き回収容器を運び、車に自動で乗せることができる(人力で行うには重くて無理)。

●この回収容器は、最大で32個をトラックに積載できる。生ごみは、このトラック2台で回収される。

●堆肥化 回収された生ごみは堆肥化受託業者である養豚場に運ばれ豚糞やモミガラ、チップなどと混和して堆肥化されること。

●今回は堆肥化の状況は見学できなかった。回収にかかる経費は、年間回収にかかる経費は、年間



パワーゲート付トラック

●堆肥の配布 約1680万円(堆肥化の経費は含まず)。

●でき上がった堆肥は、年4回、フレコンバックで町会に運ばれ、町会で配布される。

第20回生ごみリサイクル交流会 開催される

●恒川芳克氏が分科会で事例発表

8月21日(火) 毎年恒例の標記交流会が明治大学リパティタワーで開催され、多くの仲間が参加しました。



全体会の様子

化運動と日本農業の課題」を、NPO法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏が「生ごみは土づくりの最高の資源」と題して講演を行いました。



発表する恒川氏

また、会場で行われた「各地物産の販売」では、恒例となっているNPO緑の会が販売を担当して、大いに売上に貢献しました。

恒川芳克氏は「堆肥化運動20年、更に前進させるための課題」と題した分科会で事例発表を行いました。

編集後記 生ごみリサイクル交流会の懇親会で挨拶した有機農業推進議員連盟(超党派の議員162名で構成)のツルネマルティ事務局長が、本年12月に予定されている食品リサイクル法改正の折、「家庭系生ごみを焼却せずリサイクルしなければならぬ」とする法律を上程すると話しました。この実現を期待したいものです。 K F